

No.1 体育館改修事業

[申請部署: 高校教頭、中学教頭、事務室]

**【必要性・目的、実施計画等】**

≪必要性・目的≫

本校の体育館は、体育の授業や部活動はもとより、式典や学校説明会等の各種行事で活用しているが、1985年4月に竣工してから既に38年が経過しており、かなりの老朽化が進んでいる。

法定耐用年数(50年)まであと12年であることから、将来的な建替え等計画を検討したいところであるが、現在の体育館は急傾斜地に建設されていることから、同じ場所に建替えを行うのは困難である。仮に建設許可が下りたとしても、建替え工事期間中、屋内運動施設における体育の授業や部活動、また学校説明会、入学式や卒業式といった大人数での学校行事を実施できる場所が校内で確保できず、学校運営に多大な支障がでる。また、敷地内の別の場所に体育館を建設できるだけのスペースがあれば、現有の体育館を残したまま別の場所に新築し、その後解体という考えもできるが、新たに体育館を建てられるスペースもない。

以上により、今後も長期間に渡って現在の体育館を使用し続ける必要があることから、教育環境改善のため、老朽化により支障がでている箇所について改修工事を行う。

≪実施計画≫

2024年度においては、優先度が高い以下について改修工事を行う。

(主な改修内容)

- ・既設屋根部分の大規模改修
- ・アリーナ照明のLED化
- ・体育館上部に換気用自動開閉窓の設置 等

【参考】2025年度以降の計画（予算確保の問題もあり、実施年度・内容とも現時点で詳細は未定）

- ・アリーナ床面の補修工事
- ・バスケットゴール等、運動用備品の更新
- ・アリーナに空調設備(エアコン)を設置(換気窓設置後も環境が改善されない場合) 等

**【具体的指標・効果(成果検証)】**

- ・教育環境の改善による、生徒や保護者の満足度向上。
- ・体育館はオープンスクールや学校説明会でも使用しており、改修工事を行うことで入試広報面での向上にもつなげたい。

**【必要性・目的、実施計画等】**

《必要性・目的》

本校では、ICT教育を導入することで「授業力」と「生徒たちが将来必要なICTスキル」を向上させることを狙いに、2015年度からICT教育推進WGを発足。ICT教育に必要な機器を検討のうえ、導入・整備してきた。これは、2013年の「日本再興戦略」においてICTを活用した教育の構想として「2010年代中に1人1台の情報端末による教育」と明言されたことを受けて推進してきたものである。(国のICTを活用した教育構想は、その後、2019年に文部科学省が「GIGAスクール構想」として具体化)。本校ではこれまで、GIGAスクール構想に先んじた形でICTを活用した教育を推進することで、Society 5.0時代を生きる生徒たちに必要な能力を養ってきた。

しかしながら、その多くの機器において整備が完了してから相当の年数が経過しており、今後も継続的に活用するためにも、数年間かけて計画的に機器の更新整備が必要である。

《実施計画》

2024年度においては、普通教室23教室分の電子黒板システムの更新を行う。  
なお更新にあたっては、掛かる費用を軽減するため、一部部材(プロジェクタ取付金具、接続配線)は既存のものを流用する。

【参考】2025年度以降の予定

- 2025年度:無線LAN装置の更新、サーバーの更新
- 2026年度:普通教室28教室分の電子黒板システムの更新

**【具体的指標・効果（成果検証）】**

一部の教室において、教員が電子黒板システムの不具合により授業準備に余分な負担が発生している現状がある。システムの更新により、機器の不調が解消され、どの教室も同様の使用環境で授業ができるようになることで、生徒の教育環境が維持できる。また、能動授業、協働学習、反転授業、適応学習、探求型学習などといった学習体系に向けて活用することで、教育効果の向上が期待できる。